

曹洞宗 圓祥山大安寺 住職:長岡俊應

〒039-4401 青森県むつ市大畑町本町80番地
Tel 0175-34-2926 Fax 0175-34-6426
E-mail info@daijanji.jp

大安寺報



名句・名言に学ぶ

日野原重明 (医師)

自分のためにでなく、人のために生きようとするととき、その人は、もはや孤独ではない。

お盆は、普段は地元を離れている方がごぞつて帰省し、にぎやかに食事を共にしたり、お墓参りに出かけたりする時期。少子高齢化、そして産業の衰退による人口流出などによって、かつてよりさびしくなった地元がひととき賑わいます。亡くなった方々が一斉にこちらの世界に戻って来るといわれる時期ということもあり、さながら、あの世とこの世のラッシュアワーの様相。久しぶりに会った同士で交流し、花火大会などで一同に会することで、普段感じてしまいがちな孤独感が癒される時期でもあります。

ところで、皆さんは、お盆のお参りの際に、「自分にとつて大切な方だけ」の安寧を祈っておられるでしょうか？おそらく、無意識ながらも、あの世におられる亡き方々全ての安寧を祈っておられるはずです。その祈る心を具現化したのが、当山において毎年八月十六日に営んでいる「盂蘭盆会施食会法要」です。この法要では、様々な理由によって供養されなかつた無縁の精霊も含め、全ての霊(萬

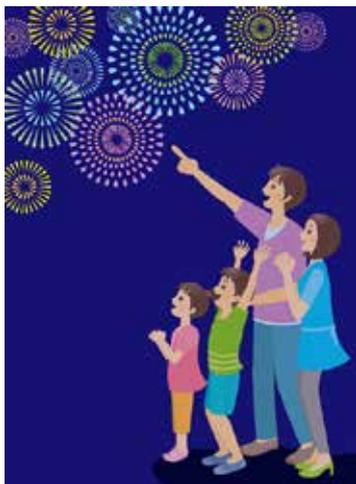
霊) に対して食を施し、仏さまによる救済を祈るものです。そして、その供養による功德(善い影響力)を、皆さんにとつて、より大切な方々に振り向けるのです。さて、先ごろ百五歳で亡くなった医師・

日野原重明さんによる冒頭のことばの持つ意味と、医師として沢山の方々の体と魂の救済に尽くしてきた氏の生き方を重ねる時、その重みが伝わってきます。

個人主義が進む現代において、私たちは、ともすれば「自分さえよければ」という「利己的な生き方」をしてしまいます。しかし、そのことによって、周囲とのトラブルが生まれ、孤独感を深め、結果として孤立してしまいます。一方、「人のために」生きることにより、自己肯定感を高め、平素のつながりを強め、孤独感を脱することが出来ます。

自らを支えてくれている他者の存在を感じやすいこのお盆の時期に、人のために生きる“利他の心をお互いに養いた

合掌



仏事

Q & A

第三十一回

Q、納骨する気持ちの整理がつかみません。どうすればいいのでしょうか？

A、いつまでに納骨をしなければならぬという決まりはありません。納骨できるまで、故人の遺骨を身近なところにお祀りしておくことはできます。ただ一つお伝えしたいのは、納骨をしたからといって、故人はどこか遠くへいつてしまおうわけではないということです。ご自宅の仏壇には故人の位牌があり、そこでは御本尊さまが故人とあなたを見守っています。故人は変わらずにあなたの傍にいます。

また遺骨には、墓地や納骨堂といった納めるべき場所というものがあり、納骨をすることで気持ちの整理がついたという方もいらっしゃいます。遺骨は墓地へ納め、位牌はご自宅の仏壇にお祀りし、手を合わせてさしあげるといっても、故人にとつてふさわしい在りかたなのかもしれません。

出典:「おくる」曹洞宗の葬儀と供養
(編著:曹洞宗岐阜県青年会)

大安寺の宗旨:曹洞宗 本山:福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖:道元禪師 太祖:瑩山禪師
ご本尊:釈迦牟尼仏 本尊唱名:南無釈迦牟尼仏(なむしゃかむにぶつ)